

「受事賓語」再考

—他動性の視点から—

三宅登之

Reconsideration of Patient Object — from the Viewpoint of Transitivity

Takayuki Miyake

0. はじめに

動賓連語という一つの文法カテゴリーの、動詞（以下“V”と記すことがある。）と賓語（同“O”）の間の意味関係を検討すると、それが意味的には一つのカテゴリーとは言えないほど多岐にわたっていることがわかる。一般には、例えば動賓連語

(1) 吃苹果（リンゴを食べる）

におけるV“吃”に対するO“苹果”の意味、即ち動作行為の被動者（patient）が賓語の典型として想起されるが、

(2) 洗冷水（冷たい水で洗う）

のように、Oが動作行為に用いる道具を表したり、

(3) 盖房子（家を建てる）

のように、Oが動作行為によって生み出される結果を表しているものもある。しかしこの点自体は、ここで改めて指摘するまでもないくらい周知の事実である。

さて、体詞性賓語の分類の際、(1)におけるOに代表されるような受事賓語は、ほぼ賓語の典型のように考えられている。本稿の目的は、受事賓語の成員に対して意味論的視点から検討を加えてその多様性を指摘し、同時に、受事賓語と他の賓語の類似性が存在する点を述べることである。

1. 体詞性賓語の分類

1.1 孟琮等1987の体詞性賓語分類の例

上記のように、動詞とそれに対する体詞性賓語の意味的な多様性に関しては、現代中国語の文法の概説書などでもしばしば言及され、多くの研究において体詞

性賓語の分類が試みられてきた。

ここでは、非常に詳細な体詞性賓語の分類の一例として、孟琮等1987,7-11を検討する。孟琮等1987は、体詞性賓語を以下の14類に分けている。

1. “受事賓語”

動作・行為が直接事物に及ぶもの。“钓鱼”（魚を釣る）“打电报”（電報を打つ）等。

2. “結果賓語”

動作が生み出した結果を表すもの。“订条约”（条約を結ぶ）“盖房子”（家を建てる）等。

3. “对象賓語”

ある行為（一般には動作ではない）がある対象に向かって発せられるもの。“教育孩子”（子供を教育する）“感谢首长”（指導者に感謝する）等。

4. “工具賓語”

動作の道具あるいは用いられる材料を表すもの。“抽鞭子”（ムチを打つ）“盛大碗”（どんぶりで盛る）等。

5. “方式賓語”

ある方式で動作・行為が行われることを表すもの。“唱A调”（イ調で歌う）“存活期”（当座で預金する）等。

6. “处所賓語”

動作や行為がある場所に及んだり、ある場所で発生することを表すもの。“回南京”（南京に帰る）“走小道”（小道を歩く）等。

7. “时间賓語”

動作・行為が賓語の表す時間内に発生することを表すもの。“熬夜”（徹夜する）“起五更”（朝暗いうちに起きる）等。

8. “目的宾语”

動作や行為を行う目的を表すもの。“考研究生”(大学院を受ける)“等朋友”(友達を待つ)等。

9. “原因宾语”

動作や行為を行う原因を表すもの。“避雨”(雨やどりする)“缩水”(水に縮む)等。

10. “致使宾语”

動詞は結果あるいは持続する状態を表し、賓語は動作によってある結果・状態を生ぜしめられるもの。“开门”(ドアを開ける)“闭嘴”(口を閉ざす)等。

11. “施事宾语”

動作や活動の当事者を表すもの。“出去了一个人”(人が一人出かけた)“下雨了”(雨だ)等。

12. “同源宾语”

新たな意味をつけ加えないもの。“唱歌”(歌を歌う)“走路”(歩く)等。

13. “等同宾语”

賓語と動詞の前の主語とが意味上等しいもの。“我踢中锋”(私はセンターフォワードだ)“他担任班长”(彼は班長だ)等。

14. “杂类”

上の13分類のいずれにも属さないもの。“闯红灯”(信号無視をする)“上年级”(年をくう)等。

このうち第6類の“处所宾语”や第11類の“施事宾语”は準賓語の枠に入るので¹⁾議論の上で別扱いにすることも可能である。

1.2 体詞性賓語分類の基準

孟琮等1987の他にも、体詞性賓語に対しては崔承一1988、李临定1990、马庆株1987等多くの研究がそれぞれの基準からの分類を試みているが、孟琮等1987と極めて異なる分類を行っているものはない。とは言えども無論、これらの分類が完全に同じ結論を示しているというわけではない。例えば“我踢中锋”(私はセンターフォワードだ)のようなものを李临定1990では“角色宾语”と名付けているし、马庆株1987では“受事宾语”を“客体宾语”、“施事宾语”を“主体宾语”と呼ぶなど、名称の異なっているものもある。また“予夺宾语”“表称宾语”等(马庆株1987)、それぞれに独自の類を設定して異なった分類を行っているものもある。

確かに、“工具宾语”、“方式宾语”、“原因宾语”等、他の言語では修飾語としての前置詞句によって表されることが多いであろうと予想されるような成分が賓語となる現象は、中国語の賓語の性質を体現した興味深い現象であり、これらの賓語を個別に扱った研究も少なくない²⁾。しかし、言語事実に対してある理論の枠組

みに基づいて何らかの分類を行っただけでは、ともするとそれぞれの分類のうちいずれが優れているかという優劣の問題にとどまってしまう。無論それも重要なテーマではあるが、分類をする際、その全体を貫く分類基準は何か、それによって言語事実の背後にあるどのような体系・原理が説明されるのかという点も、結果と同様もしくはそれ以上に重要視されなければならない。

2. 受事賓語について

2.1 先行研究の受事賓語の扱い

さて、本稿ではさまざまな賓語の中でも受事賓語に着目する。一般には賓語の中では受事賓語が最も容易に想起される極めて典型的なものである。

先行研究においても、その名称が異なる場合はあるにしても、「受事賓語」という名称が指し示す賓語の類の存在は間違いなくいずれもが認めている。ただし、実際にその類の中の成員がすべて一致しているわけではない。

そもそも、動詞と受事賓語の間の意味関係も一つしか存在しないのではない。この点は孟琮等1987も事実としては認めている。孟琮等1987, 7は、受事賓語の意味を“动作或行为直接及于事物”(動作あるいは行為が直接事物に及ぶ)と記述した上で、以下のようなものを含むとしている。

1. “取得”(取得)を表すもの。例えば“钓鱼”(魚を釣る)。
 2. “接受”(受けること)を表すもの。例えば“负担生活费用”(生活費を負担する)。
 3. “发出”(発すること)を表すもの。例えば“打电报”(電報を打つ)。
 4. “具有”(持つこと)を表すもの。例えば“有钱”(お金を持っている)。
 5. “破坏”(破壊)を表すもの。例えば“砸玻璃”(ガラスを砕く)。
 6. “改变”(変えること)を表すもの。例えば“叠被子”(掛け布団を畳む)。
- 等。

また、孟琮等1987の受事賓語の成員のうちいくつかを、他の研究では受事賓語以外の類に分けていた場合がある。例えば“具有”(持つこと)を表す“有钱”(お金を持っている)のような例における〇は、陈建民1986では“领有宾语”として受事賓語とは別のものと考えられているし、“给钱”(お金をやる)のような例における〇は孟琮等1987では受事賓語の中の“发出”

(発すること)を表すものの中に入っているが、馬庆株1987では“予夺宾语”というやはり受事賓語(馬庆株1987では“客体宾语”)とは別の枠組みの中に入れられている。この諸家の意見の相違は、一つの枠にあてはめることによって、一見単一の意味しか存在していない印象を与えかねない受事賓語にも、実はさまざまな意味が存在しているという現象をとりも直さず反映している。

2.2 受事賓語の意味的多様性

2.2.1 使役構造

さて、受事賓語を意味的に特徴付けているのは何であろうか。上記の“動作或行為直接及于事物”(動作あるいは行為が直接事物に及ぶ)という記述(孟琮等1987, 7)からもわかるように、典型的にはある動作主から動詞で表される動作行為が賓語に直接及んだ場合、このような賓語を受事賓語と呼んでいるわけである。この情況は(4)のように図式化できる。

(4) S(a) → V → O(p)

S(a)は主語(S)の位置に立つ動作主(agent)を指す。Vは動詞が表す動作行為である。O(p)は賓語(O)の位置に立つ被動者(patient)を指す。矢印は、ある動作行為(V)が動作主(S(a))から発せられて被動者(O(p))へ到達することを表している。

(4)は、外部世界の出来事を、使役的な事態、すなわちある物が他の物へ力を加え変化を生じさせようとする事態として捉えられた際の、使役構造(causal structure)の図式にはかならない。S(a)からO(p)への力の働きかけは力の伝達と見なされ、表現される。³⁾

この使役構造は、VのO(p)に対する他動性(transitivity)によって特徴付けられる。他動性とは概略的に言えば、「動詞によって表わされる行為が何らかの他者なる対象に向けられているかどうか、そしてもし向けられているならば、行為がその対象にどの程度影響を及ぼすか、という点についての話者の認知」(池上1993, 35)である。⁴⁾使役構造というカテゴリーは、この他動性の強弱を基準として、プロトタイプから周縁的な成員までの、さまざまな構文から構成されているのである。

2.2.2 使役構造—英語・日本語の例

以下、使役構造の内部を、他動性を基準として検討する。まず英語と日本語を検討対象としてとりあげる。

英語における他動性及びそれが形式化された他動詞構文が、さまざまな成員からなる多様性を示す点に関しては、Givón1984, 96-109やGivón1993, 106-116等でも指摘されているが、ここではTaylor1989を例にと

る。

Taylor1989, 206-215では、英語の使役構造は

(5) NP₁ V_{TRANS} NP₂

のように、主語(NP₁)と目的語(NP₂)の関係が他動詞(V_{TRANS})で表されているため、これを他動詞構造(transitive construction)と呼んでいる。(5)と(4)をもとに、以下では説明の便宜上、NP₁をS(a)と、NP₂をO(p)と、V_{TRANS}をVと置き換えて述べる。以下が他動詞構造の例である。

(6) Mary killed the intruder. (メアリーは侵入者を殺した。)

(7) John moved the table. (ジョンはテーブルを動かした。)

(8) I dug the ground. (私は地面を掘った。)

(9) We approached the city. (私たちは都市に近づいた。)

(10) John obeyed Mary. (ジョンはメアリーに従った。)

(11) I watched the movie. (私は映画を見た。)

(12) I like John. (私はジョンが好きだ。)

(13) John resembles his brother. (ジョンは兄に似ている。)

これらはみな、形式的には(5)という単一なカテゴリーに含まれるが、意味的には多種多様な様相を呈している。(6)ではO(p)がVの直接的な影響を受けて変化する。(7)ではO(p)の物理的位置が変化する。これらは他動詞構文のプロトタイプである。ところが(8)ではS(a)の行為によってO(p)はその一部分しか影響を受けないし、(9)ではO(p)はS(a)の行為による影響を受けない。(10)では動作はS(a)によって発動されるものの、その動作行為によって支配されるのはO(p)ではなくS(a)自身である。(11)は動作行為というよりもS(a)の知覚を表し、(12)はS(a)の心的状態を述べたものである。(13)はS(a)とO(p)の関係を表した文で、そこにはもはや動作行為は存在しない。

このように、他動性の強弱という意味的基準に基づく、他動詞構造は(6)のようなプロトタイプから(13)のような周縁的な成員までの、さまざまなものから構成されていることがわかる。

次に日本語の例を考えてみる。日本語では一般には使役構造は

(14) S(a)-が O(p)-を V-する (した)

のように、動作主は格助詞の「が」、被動者は格助詞の「を」によってマークされる。この構文も、他動性を基準にすると、さまざまなものから構成されることが、

仁田1993や山梨1995で論じられている。ここでは山梨1995, 239-241の例をもとに検討する。

- (15) 太郎がグラスを割る。
- (16) 次郎がドアをあける。
- (17) 子供が母親のお腹をさわる。
- (18) 花子が新聞を読む。
- (19) 生徒が数式を暗記する。
- (20) 一郎が財産を得る。
- (21) 子供がお金をなくす。

(15)は使役構造のプロトタイプと考えられる。しかし(16)では「ドア」は動くが、「ドア」自体が変化するわけではない。(17)では「お腹」は動かない。(18)~(20)では、動作が動作主から被動者へ一方的に及ぶだけでなく、視覚的刺激や知的刺激、金銭等の何らかの存在が逆に動作主のほうにもかかってくる。(21)でも、動作主は影響を受けるし、そもそも動作自身を動作主がコントロールできない。このようにさまざまな意味でプロトタイプから逸脱した周縁的な成員が存在している。

2.2.3 中国語の受事賓語の分析

さて、中国語の受事賓語の分析に移る。孟琮等1987において受事賓語と扱われているもののうちいくつかの例を選び、他動性の強弱に基づいて分析を加えると、以下のようにさまざまな意味関係に分類することが可能となる。以下の用例は、孟琮等1987において受事賓語となっているものの用例や、同じ動詞と同類の賓語の組み合わせの中日合作 MMT 汉语生成組1994や王砚农等1984等からの用例である。⁹⁾

[1] 類：賓語の形態が変わってしまうもの

- (22) 他掰了一根树枝。(彼は枝を一本へし折った。)
- (23) 他拆了一台收音机。(彼はラジオを解体した。)
- (24) 他扯了一张报纸。(彼は新聞紙を一枚破った。)
- (25) 那个罪犯用斧子砍了一个人。(その犯人は斧で一人の人を切り殺した。)
- (26) 我除了猪肉还切了一点儿牛肉。(私は豚肉の他に牛肉も少し切った。)
- (27) 他撕了一张画儿。(彼は絵を一枚破った。)

これらの例においては、S(a)からO(p)への力の働きかけが具体的かつ直接的で、O(p)はその結果非常に大きな影響を受ける。例えば(22)では「枝」が折られた結果本来の状態から「枝」は完全に変わってしまうし、(23)でも「ラジオ」は解体されると完全に元の状態から変化してしまう。(24)から(27)の「破る」「殺す」「切る」等も同様で、これらのVが実現されるとO(p)は直接的な強い影響を受け、その結果O(p)自身が元の状

態から完全に変化する。

[1]類の意味構造は次のように図式化することができる。

(28) [1] S(a) → V → O(p) → R
RはO(p)が影響を受け変化した後の結果状態を表す。

[2] 類：賓語が消滅するもの

(29) 她吃了两个馒头。(彼女はマントウを二つ食べた。)

(30) 他喝了两杯茶。(彼はお茶を二杯飲んだ。)

(31) 我已经删了几个字。(私はもう字をいくつか削った。)

これらの例においても、Vの実現の結果O(p)が直接強い影響を被るという点では[1]類と同様である。ただ[2]類の例は、O(p)が被る影響として、Vの実現の結果O(p)は消滅してしまうという共通の意味特徴を持っている。例えば(29)では、「マントウ」は食べられるとなくなってしまうし、(30)の「お茶」も飲まれるとなくなってしまう。(31)でも「字」は削られると消滅する。

消滅も変化後の結果の一種であるから、[2]類の意味構造も[1]類と同様に次のように表示することができる。

(32) [2] S(a) → V → O(p) → R

[3]類：賓語の物理的存在状態に変化をもたらすもの

(33) 他们在那里埋了一包炸药。(彼らはそこに爆薬を埋めた。)

(34) 我抓了几个花生。(私はラッカセイをいくつか握った。)

(35) 我盛了一碗饭。(ご飯を一膳よそった。)

(36) 我用酒泡了些枣。(私はナツメを少し酒に漬けた。)

(37) 他贴了一张广告。(彼は広告を一枚貼った。)

(38) 她头上戴了一朵花。(彼女は頭に花を一つつけた。)

(39) 妈妈给我搞了几个苹果。(母が私にリンゴをいくつかもぎ取ってくれた。)

[3]類の例に共通した意味特徴は、Vの実現の結果O(p)の存在している状態が変化するという点である。(33)では「爆薬」が埋められ、(34)では「ラッカセイ」が握られた状態へ変化している。(35)から(39)の例においても、同様に「ご飯」「ナツメ」「広告」「花」「リンゴ」が、本来あった状態から、Vの実現によってその影響を受け、違った形での存在状態に移行している。ただしそれぞれのO(p)自身が形態の変化等の影響を

受けるわけではない。従って[3]類は、O(p)が存在している状態が変化するという点ではVの他動性の影響を受けているが、O(p)自身は影響を受けないので、

[1]類や[2]類ほどは他動性は強くないと考えることができる。[3]類の意味構造は以下のように表示することが可能である。

(40) [3] S(a) → V → O(p) → O(p)'
Vが実現してもO(p)自体は変化しない。O(p)'は、S(a)からの働きかけVを受けてO(p)の存在形態が変化することを表す。

[4]類：賓語の物理的位置に変化をもたらすもの

(41) 我一共寄了三封信。(私は全部で手紙を三通出した。)

(42) 这个男孩儿抛了一块石头。(この男の子は石を一つ投げた。)

(43) 他一口气扔了二十几个球。(彼はいききに球を二十数个投げた。)

(44) 小孩儿搬了把椅子。(子供が手で椅子を一つ動かした。)

(45) 我给他传了一封信。(私は彼に手紙を一通手渡した。)

[4]類にはVの実現によってO(p)の物理的位置が変化するという共通の意味特徴がある。⁹⁾(41)では「手紙」は郵送された結果発送者(この場合は“我”)の手元から離れる。(42)では「石」が投げられて「男の子」の手から別の場所へ向かって移動する。(43)から(45)においても、「球」「椅子」等が動かされて物理的位置に変化が生じる。しかし、すべてO(p)自身がVの実現によって変化をするわけではない。[4]類のVが表す中心的意味はあくまでもO(p)の位置の移動であって、移動の結果O(p)自身ももし変化を生じたとしても、それは当該の言語形式が表す意味ではない。従って[4]類のVも[1]類や[2]類などよりは他動性がやや弱い部類に属する。[4]類の意味構造も[3]類同様、以下ようになる。

(46) [4] S(a) → V → O(p) → O(p)'
Vの実現によりO(p)は物理的位置が変わりO(p)'になる。

[5]類：賓語が影響を受けないもの

(47) 他已经翻译了两部长篇小说。(彼はもう長編小説を二編翻訳した。)

(48) 姐姐订了两份报纸。(姉は新聞を二部注文した。)

(49) 他回答了记者提出的问题。(彼は記者の出した質問に答えた。)

(50) 在第一学期他只教了一些基本技能。(第1学期は

彼はいくつかの基本技能だけを教えた。)

(51) 在这个点上他们测量了海拔高度。(この地点で彼らは海拔高度を測量した。)

(52) 他算了这个月的房租。(彼は今月の部屋代を計算した。)

[5]類ではVの実現によってO(p)が影響を受けない点に注意すべきである。(47)では、「長編小説」が「翻訳された」ことによって、翻訳がない状態からある状態に変わったと言えないこともないが、元の「長編小説」自体に変化はない。(48)から(50)も同様である。(51)では、「海拔高度」は「測量」された後でも変るはずがないし、(52)においても、「計算し」ても「部屋代」はまったく変らない。[5]類はVからO(p)への他動性は非常に弱く、意味的には使役構造のプロトタイプから遠ざかった周縁に位置していると考えることができる。

[5]類の意味構造は、以下のように表示できる。

(53) [5] S(a) → V → O(p)

S(a)からの働きかけVはO(p)に到達するが、O(p)は何らその影響を受けず、変化しない。

[6]類：賓語が影響を受けないだけでなく、逆に主語が影響を受けるもの

(54) 我传染了痢疾。(私は赤痢がうつった。)

(55) 他承担了一项重要的任务。(彼は重要な任務を引き受けた。)

(56) 他负担了母亲的全部生活费。(彼は母のすべての生活費を負担した。)

(57) 调查组接受了这个意见。(調査グループはこの意見を受け入れた。)

(58) 他们已经学习了先进的办法。(彼らは既に進んだ方法を学んだ。)

[6]類は大枠では[5]類の中の小類と考えることも可能である。[6]類が共通に持っている意味特徴は以下のように説明できる。即ち、本来使役構造

(4) S(a) → V → O(p)

ではS(a)からO(p)への力の働きかけがあり、O(p)が影響を受けるのであるが、[6]類においてはO(p)が影響を受けないばかりでなく、本来力の発動者であるS(a)のほうが逆に何らかの影響を受けるのである。

(54)はその典型である。¹⁰⁾(55)では「重要な任務」を引き受けたことによって、それ以前に存在しなかった責任がS(a)（「彼」）に生じることになる。(56)では「母の生活費」を負担することによって、S(a)（「彼」）に文字通り新たな負担がかかる。(57)や(58)においてもVの実現によってS(a)が何らかの影響を受ける点で

は同様である。

従って、[6] 類の意味構造は、次のように表示することができる。

(59) [6] S(a) \leftrightarrow V \rightarrow O(p)

(59)は、S(a)はO(p)に対して働きかけを行うが、S(a)自身もVの何らかの影響を受けることを表している。

[7] 類：主語の心的動きや知覚を表すもの

(60)她记了好多电话号码。(彼女はたくさんの電話番号を覚えた。)

(61)我懂了好多事。(私はたくさんのことが解った。)

(62)我忘了一件重要的事。(私は重要なことを一つ忘れた。)

(63)你误会了我的意思。(あなたは私の意味を誤解している。)

(64)我早就知道了这件事。(私はとっくにこのことは知っていた。)

(65)我明白了真相。(私は真相が解った。)

(66)我昨天下午看了个展览。(私は昨日午後ある展览を見た。)

(67)我昨天听了一会儿相声。(私は昨日漫才をしばらく聞いた。)

(68)她闻了闻那盘菜。(彼女はちょっとその料理のにおいを嗅いだ。)

(69)她一天就见了很多朋友。(彼女は一日で多くの友人にあった。)

[7] 類の例においては、S(a)からO(p)に対しての力の働きかけは存在しない。(60)では、「覚える」という行為によって「電話番号」に対して何か可視的な力の働きかけがあるわけではないし、その結果当然「電話番号」にも何らかの影響も及ばない。そこに存在するのは外的な動作行為ではなく、S(a)の心的な活動・変化である。(64)の「知る」や(65)の「解る」も同様で、その文が述べているのはS(a)の心の中の活動である。

(66)以降の例の「見る」「聞く」等は、S(a)の知覚活動を表している。これらの例でも、S(a)からO(p)に対しての動的な働きかけは存在しない。むしろ逆に外部の刺激が体内の感覚器官へ入り込み、それをS(a)が知覚するのである。

以上のように、他動性という視点から考えた場合、[7]類は受事賓語というカテゴリーの中では異質である。意味的には主語と賓語は動作主と被動者という関係ではなく、心的動きを経験する経験者(experiencer)と、その動きを起こす原因となる刺激(stimulus)の関係である。⁸⁾ [7] 類の意味構造は以下のように記述で

きる。

(70) [7] S(e) — V — O(s)

S(e)は動作主ではなく経験者としての主語を、O(s)は被動者ではなく刺激としての賓語を表す。両者間には力の伝達は存在しない。

[8] 類：関係・状態を表す文

(71)这句话包含了好几层意思。(この言葉には幾重もの意味が込められている。)

(72)这个讲话包括了很多人原来没写进去的内容。(この講話は本来は書かれてなかった内容を多く含んでいる。)

(73)这些意见反映了大家的要求。(これらの意見は、みんなの要求を反映している。)

(74)这个提案体现了发展中国家的利益和要求。(この提案は発展途上国の利益と要求を具体的に表している。)

(75)他的身材具备了演员的条件。(彼の体格は俳優の条件を備えている。)

[8] 類においては、主語から賓語への他動性はさらに弱まり、既に存在しないと言っても過言ではない。(71)では、「この言葉」と「幾重もの意味」との間に何らかの力の働きかけ等はまったく存在しない。(72)においても「講話」と「内容」の間に力の伝達も、また刺激の受容もない。(73)以下も、「反映している」「表している」「備えている」というのは主語と賓語の二つの名詞項の静的関係・状態を述べているに過ぎない。動詞は、もはや動作行為を表しているのではなく、文全体で一つの状態を表しているのである。意味構造は以下のように表示することができる。

(76) [8] S — (V) — O

(V)は、動詞が具体的かつ動的動作行為を表さないことを表示している。

以上、中国語の受事賓語を他動性の強さという視点から検討してきた。さまざまな意味構造(28), (32), (40), (46), (53), (59), (70), (76)を以下に(77)として再録する。

(77)		他動性
[1]	S(a) \rightarrow V \rightarrow O(p) \rightarrow R	強
[2]	S(a) \rightarrow V \rightarrow O(p) \rightarrow R	
[3]	S(a) \rightarrow V \rightarrow O(p) \rightarrow O(p)'	
[4]	S(a) \rightarrow V \rightarrow O(p) \rightarrow O(p)'	
[5]	S(a) \rightarrow V \rightarrow O(p)	
[6]	S(a) \leftrightarrow V \rightarrow O(p)	
[7]	S(e) — V — O(s)	
[8]	S — (V) — O	弱

(77)から、受事賓語という文法カテゴリーの中にも、他動性の強弱という意味的基準を元に検討を加えると、さまざまな成員が混在していることがわかる。しかしこのカテゴリーも、ただ単にばらばらの成員が雑多に無秩序に分布しているのではなく、[1]類や[2]類のような非常に他動性の強いプロトタイプから、[7]類や[8]類のような他動性のほとんど存在しない周縁的な成員までの、段階的な連続体を構成しているのである。

3. 受事賓語と他の賓語の類似性

3.1 他の賓語との類似性

さて、第2章ではもっぱら受事賓語の内部の成員の多様性に関して分析を加えてきた。本章では、受事賓語から外部に目を向けた場合、他の賓語との間でも決して厳密な境界線が引けるわけではないこと、即ち受事賓語と他の賓語も非常に近い性質を持っている可能性のあることに関して、若干の考察を試みる。以下ではその一例として結果賓語を考察の対象として取り上げる。

3.2 結果賓語

3.2.1 結果賓語と受事賓語の「ゆれ」

賓語のさまざまな類のうち、結果賓語も、多くの先行研究で必ず取り上げられている重要なカテゴリーである。朱德熙1982, 110においても、VO間の意味関係のうちの一つとして、賓語が“動作产生的結果”(動作が生み出した結果)であるものを取り上げている。以下、結果賓語を含んだ動賓連語の例をいくつか先行研究のうちからあげる。

- (78) 盖房子 (家を建てる) (朱德熙1982)
- (79) 写信 (手紙を書く) (朱德熙1982)
- (80) 打眼儿 (穴をあける) (孟琮等1987)
- (81) 编草帽 (麦わら帽子を編む) (孟琮等1987)
- (82) 包饺子 (餃子を作る) (孟琮等1987)
- (83) 订条约 (条約を結ぶ) (孟琮等1987)
- (84) 炒鱼香肉丝 (魚香肉絲を作る) (李临定1986)
- (85) 堆雪人儿 (雪だるまを作る) (李临定1986)
- (86) 煮粥 (かゆを炊く) (李临定1990)
- (87) 洗照片 (写真を現像する) (李临定1990)
- (88) 绣花 (刺繡する) (马庆株1987)
- (89) 做鞋 (くつを作る) (马庆株1987)

例えば、(78)では「家」は「建て」てから生じるのであって、建てる以前には存在しない。このように結果賓語は動作行為の行われた結果、後に生じる賓語であり、受事賓語とは異なるグループとみなすことがで

きる。

しかし本稿では、他動性の視点から結果賓語は受事賓語とほぼ同列上のものと考えて。つまり、結果賓語が受事賓語とはまったく性質の異なった異質なグループと考える必要はないのである。⁹⁾例えば孟琮等1987において、受事賓語と判定されている例でも、意味的にはVの実現の後に生じる結果賓語と考えてもおかしくないようなものがいくつか散見される。

(90) 雇临时工 (臨時雇いを雇う)

(91) 规定了几条纪律 (規律をいくつか定めた)

(92) 准备酒席 (酒席を準備する)

(90)~(92)は孟琮等1987では受事賓語の例としてとりあげられている。しかしこれらのVOはすべて、Vの実現を通じてOが生じるもの、Vの実現以前にはOは存在しないものである。以上のような例はまさに結果賓語と受事賓語の同質性を反映している。

以下、結果賓語を受事賓語と同質のものとして位置付ける根拠となる解釈を提示する。

3.2.2 結果賓語の解釈—その1

例えば、次の二つの例を再録してみる。

(1) 吃苹果 (リンゴを食べる)

(3) 盖房子 (家を建てる)

(1)のOは典型的な受事賓語であり、2.2.3の分析では[2]類の「賓語が消滅するもの」に属する。この場合、O(リンゴ)はVの実現以前には存在したものが、Vの実現によって消滅するわけである。(3)の結果賓語を表すO(家)は逆に、Vの実現以前には存在しなかったものが、Vの実現によって生じるのである。この両者の関係を表したのが(93)である。

(93) V → O(p [2]) [+存在] → O [-存在]
V → O [-存在] → O(r) [+存在]

O(p [2])は2.2.3で述べた[2]類の受事賓語を表す。O(r)は結果賓語を表す。受事賓語([2]類)はVの力の働きかけによって「有」から「無」の状態へ変るのに対して、結果賓語はVの力の働きかけによって逆に「無」から「有」の状態へ変る。両者は変化の向きが逆なだけであって、「有」と「無」の状態間の相互変化という大枠では共通していると考えることが可能である。つまり、他動性の強弱という基準からすれば、いずれも「有」と「無」の状態間で変化するという極めて強い他動性を有しているわけで、この意味において結果賓語は受事賓語内に自然に位置付けられる可能性が生じてくる。¹⁰⁾

3.2.3 結果賓語の解釈—その2

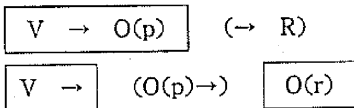
結果賓語に関してはもう一つの解釈も可能である。

李臨定1983や李臨定1986の指摘にもあるように、同一の動詞が受事賓語も結果賓語も帯びることができるものがある。

(94) 受事賓語	結果賓語
堆雪	堆雪人儿
(雪を積む)	(雪だるまを作る)
揉面	揉馒头
(小麦粉をこねる)	(マントウをこねて作る)
炒肉	炒鱼香肉丝
(肉を炒める)	(魚香肉絲を作る)

これらの例からもわかるように、受事賓語 O(p) に対しては V は力の働きかけを行うが、その結果 O(p) がどのような結果に変化するかまでは必ずしも言及していない。一方結果賓語 O(r) では、O(r) が結果として生じるにはその前提として V が力を及ぼす対象 O(p) が必ず存在していたことになる。例えば「堆雪人儿」では、「雪だるま」を作ったということは当然そのために雪を積むことが前提となっているのである。ただ「堆雪人儿」という言語形式は、雪を積み上げる前段階には関心がなく、結果段階の「雪だるま」にのみ焦点をあてているのである。両者の関係は以下のように考えることができる。

(95)



受事賓語 O(p) を伴った VO は、動詞と被動者に認知の焦点があたった（四角の枠で囲まれた部分）形式であり、V の実現の結果 R を含意するかどうかは動詞によって異なる。これに対して結果賓語 O(r) を伴った VO では、客観世界では前提として必ず存在する被動者 O(p) は背景化され、結果のほうに認知の焦点があてられ前景化される。その結果、人間の認知の反映としての言語形式上にも、背景化されたために表現されなかった被動者の本来の位置に取って代わり、結果を表す成分が賓語として位置付けられるに至ったのである。¹¹⁾

4. おわりに

以上、中国語の動賓連語のうち「受事賓語」という文法カテゴリーも、意味論的に分析すると決して均一な成員から構成されているのではなく、他動性の強い動詞に伴った受事賓語のプロトタイプから、他動性の

ほとんど存在しない動詞に伴った周縁の成員まで、段階的な連続体をなしていることが論じられた。また、「受事賓語」と外部の賓語との関係においても、結果賓語を例にとり、その境界線の線引きが困難であること、即ちカテゴリー内部だけでなく他のカテゴリーとの間も連続性・類似性があることにも言及した。これはいわば意味の連続体を文法形式でデジタル化したものをもう一度アナログ状態に戻す作業であったとも言える。

現実世界で起こる事態を動詞と賓語の組み合わせで表さなければならないとき、極めて多種多様かつ連続的な現実世界の意味を、有限個のグループに分けようとするのであるから、そのグループの中の成員がさらに異質なものを構成され再分類が可能になるのは容易に想像できることである。その意味では本稿の論旨を結論からのみ眺めれば、むしろ当然とも言える結果に落ち着く。

本稿はもっぱら意味論的分析に終始したが、今後はこの結論を統語論から裏付ける作業をすすめ、「受事賓語」や「結果賓語」以外のさまざまな賓語の自然で統一的な解釈を検討することを課題としたい。

注

本稿の執筆にあたり、県立新潟女子短期大学の張真先生にはインフォーマントとしてご協力いただき、東京意味論倶楽部の諸氏からは貴重なご意見をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。

- 1) 準賓語（“准宾语”）とは、自動詞や形容詞も伴うことができる賓語のことで、動作量賓語・時間量賓語・数量賓語・場所賓語・存現賓語等を含む。朱德熙1982, 56, 興水1985, 365-368を参照。但し陸俭明1991のように、場所賓語や存現賓語を準賓語には含めない考えもある。
- 2) 例えば、宋玉柱1980, 杉村1985, 砂岡1988等を参照。
- 3) Croft1991やLangacker1991を参照。また、移動体が起点から目標へ移動するスキーマが、行為という抽象的なイベントを概念化するために用いられていると考えることもできる。池上1993参照。
- 4) 他動性に関する先行研究は非常に多く、ここで他動性についての先行研究をすべて検討することは紙面の都合で不可能である。厳密には他動性はHopper&Thompson1980や山梨1995の指摘のように、「動作主の意図性」、「目的語の被影響性」、「動作の瞬時性」等のパラメータによってその強弱を測

定することができると言われている。しかし Tsunoda1985, 角田1991, 武田1991, 山梨1995等の, Hopper&Thompson1980に対する修正案も出てくることからわかるように, 他動性のパラメータに関してはまだ統一的な見解は出ていないように思われる。そのパラメータ中でも本稿は, 対象が動作を被ること, 即ち「被動作性」(affectedness)を重要な意味基準として他動性を考察した。他動性のパラメータの中での「被動作性」の重要性に関しては角田1991, Gropen, Pinker, Hollander, Goldberg.1991に従う。

5) 本来の用例から不要な修飾語等は削除してある場合もある。いずれにせよ, 最終的にはすべての用例がインフォーマントのチェックを受けている。

6) Langacker1991, 219の“mover”に相当する。

7) (54)の用例は孟琮等1987より。孟琮等1987, 124では, (54)に対してこの例の“传染”は「うつす」ではなく「うつされる」意味であるという主旨の解説が付されている。しかしインフォーマントによると, この例は「私が(誰か他人に)赤痢をうつした。」という意味になり, うつされたという意味を表すには

(54')我传染上了痢疾。

としなければならないという。孟琮等1987, 124にわざわざ説明が付されていることから, 逆にこの例は語用論的な強い支えが必要とされるものと思われる。

8) Croft1991, 213-225や, Schlesinger1995, 139-162の“mental verbs”についての解説を参照。中国語では陳建民1986, 73-74が, このようなタイプの賓語の存在を指摘し, このような感知に関する賓語を“系事”として“受事”とは別扱いしている。

9) 結果賓語が中国語に特有のグループであると言っているのではない。Schlesinger1995, 163によると, 英語においても, 直接目的語によって表される概念として, 被動者の他にも, イベントによって出現するもの, 結果としてもたらされる(effected)ものを表す次のような例があるという。(無論この点をSchlesinger1995が最初に指摘したという意味ではない。)

They are building a castle. (彼らは城を建てている。)

They are painting a picture. (彼らは絵を描いている。)

They invented an excuse. (彼らは言い訳を

でっち上げた。)

他の言語における結果を表す目的語の問題はHopper1985において詳しく論じられている。日本語において, 動詞の表す動作以前での動作対象の存在の有無に関しては仁田1993に指摘がある。

10) 格文法理論においても, 叙述の時点の前後で, 賓語の存在状態に関して, 結果賓語と相補的な消滅を表す賓語の格規定が問題となっている。山梨1983, 506-507を参照。

11) この意味構造は形式からは以下のように裏付けることができる。(李臨定1986, 7)

揉面(小麦粉をこねる)+揉馒头(マントウをこねて作る) ⇨ 把面揉成馒头(小麦粉をこねてマントウを作る)

結果賓語に関しては稿を改めて詳細に論じたい。

文献目録

- 陳建民1986.『現代漢語句型論』。北京：語文出版社。
 崔承一1988.「述語+体詞性賓語の語義关系及賓語の語義類型」,『語文研究』第3期。
 鄧守信1975.『漢語及物性關係的語意研究』。台北：台灣學生書局。
 金廷恩1995.「試論“受事”」,『漢語學習』第4期。
 李臨定1983.「賓語使用情況考察」,『語文研究』第2期。
 (再録：『李臨定自選集』。河南：河南教育出版社1994。)
 ——1986.『現代漢語句型』。北京：商務印書館。
 ——1988.『漢語比較變換語法』。北京：中國社會科學出版社。
 ——1990.『現代漢語動詞』。北京：中國社會科學出版社。
 李行健1982.「“救火”“打扫卫生”和“養病”的結構」,『中國語文』第2期。
 陸儉明1991.「現代漢語不及物動詞之管見」,『語法研究和探索(五)』。北京：語文出版社。
 呂叔湘1984.「恢復疲勞及其他」,『語文雜記』。上海：上海教育出版社。(再録：『呂叔湘文集第五卷』。北京：商務印書館1993。)
 馬庆株1987.「名詞性賓語的類別」,『漢語學習』第5期。
 (再録：『漢語動詞和動詞性結構』。北京：北京語言學院出版社1992。)
 孟琮等1987.『動詞用法詞典』。上海：上海辭書出版社。
 宋玉柱1980.「略談原因賓語」,『南開學報(社會科學版)』第5期。(再録：宋玉柱1981.『現代漢語語法論集』。天津：天津人民出版社。)

- 湯廷池1978.「賓語的句法与語意功能」,『國語語法研究論集』。台北:台湾学生書局。
- 王砚农等1984.『汉语常用动词搭配词典』。北京:外语教学与研究出版社。
- 邢福义1960.「谈一种宾语」,『中国语文』第12期。(再录:『语法问题探讨集』。湖北:湖北教育出版社1986。)
- 1991.「汉语里宾语代入现象之观察」,『第三届国际汉语教学讨论会论文集』。北京:北京语言学院出版社。(再录:『世界汉语教学』1991年第2期。又:邢福义1992.『语法问题发掘集』。湖北:湖北教育出版社。又:邢福义1993.『邢福义自选集』。河南:河南教育出版社。)
- 俞敏1988.「论北京口语的“动宾”结构」,『第二届国际汉语教学讨论会论文集』。北京:北京语言学院出版社。
- 中日合作MMT汉语生成组1994.『现代汉语动词大词典』。北京:北京语言学院出版社。
- 朱德熙1982.『语法讲义』。北京:商务印书馆。
- 相原茂1990.「動詞(V)と目的語(O)の間柄」,『中国語』No.364。
- 池上嘉彦1993.「<移動>のスキーマと<行為>のスキーマ—日本語の「ヲ格+移動動詞」構造の類型論的考察—」,『外国語科研究紀要』(東京大学教養学部外国語科編)第41巻第3号。
- 片桐真澄1991.「直接目的語への文法化」,千葉修司他編1991.『現代英語学の諸相—宇賀治正朋博士還暦記念論文集』。東京:開拓社。
- 加藤弘・佐藤滋1995.「格助詞「が,で,を,に」の動的付与過程モデル」,『言語処理学会第1回年次大会発表論文集』。
- 與水優1961.「動賓関係について」,『中国語学』第114号。
- 1985.『中国語の語法の話—中国語文法概論—』。東京:光生館。
- 中右実1994.『認知意味論の原理』。東京:大修館書店。
- 仁田義雄1992.「「水を沸かす」と「湯を沸かす」と「風呂を沸かす」<動詞の格支配と名詞の意味特性>」,『言語』第21巻第7号。
- 1993.「連語論—ヲ格名詞の対象性—動詞連語論のテーマ—」,『國文學—解釈と教材の研究—』第38巻12号。
- 斎藤泰治1986.「動賓関係の一側面」,『教学通訊』(中国語研修学校)No.8。
- 杉村博文1985.「道具目的語の形成」,『中国語学』第232号。
- 砂岡和子1988.「タクシーには酔えない?—原因を表す動賓構造について—」,『中文教学』11(日中学院出版局)。
- 武田修一1991.「他動性に関する一考察」,千葉修司他編1991.『現代英語学の諸相—宇賀治正朋博士還暦記念論文集』。東京:開拓社。
- 角田太作1991.『世界の言語と日本語』,東京:くろしお出版。
- 山梨正明1983.「格文法理論」,安井稔他1983.『英語学大系5—意味論』。東京:大修館書店。
- 1993.「格の複合スキーマモデル—格解釈のゆらぎと認知のメカニズム」,仁田義雄編1993.『日本語の格をめぐる』。東京:くろしお出版。
- 1994.「日常言語の認知格モデル」,『言語』第23巻第1号~第12号。
- 1995.『認知文法論』。東京:ひつじ書房。
- ウエスリー・M・ヤコブセン1989.「他動性とプロトタイプ論」,久野・柴谷編1989.『日本語学の新展開』。東京:くろしお出版。
- Croft, William. 1991. *Syntactic categories and grammatical relations: the cognitive organization of information*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Givón, Talmy. 1984. *Syntax: a functional-typological introduction. Vol. I*. Amsterdam: John Benjamins.
- 1993. *English grammar: a function-based introduction. Vol. I*. Amsterdam: John Benjamins.
- Gropen, Jess, Steven Pinker, Michelle Hollander & Richard Goldberg. 1991. "Affectedness and direct objects: The role of lexical semantics in the acquisition of verb argument structure." Beth Levin & Steven Pinker(eds.), *Lexical & Conceptual Semantics*. Cambridge: Blackwell.
- Hopper, Paul J. & Thompson, Sandra A. 1980. "Transitivity in grammar and discourse." *Language*. Vol. 56, No. 2.
- Hopper, Paul J. 1985. "Causes and affects." *Proceedings of the Chicago Linguistic Society*. 21-2.
- Langacker, Ronald W. 1991. "Transitivity, case, and grammatical relations." *Concept, image, and symbol: the cognitive basis of grammar*. Ber-

- lin : Mouton de Gruyter.
- Schlesinger, Izchak M. 1995. *Cognitive space and linguistic case : semantic and syntactic categories in English*. Cambridge : Cambridge University Press.
- Taylor, John R. 1989. *Linguistic categorization : prototypes in linguistic theory*. Oxford : Clarendon.
- Tsunoda, Tasaku. 1985. "Remarks on transitivity." *Journal of Linguistics*. 21